

感謝して 生きる

秋も深まってくると木々の葉が、赤、黄、茶などに色づきはじめ、紅葉の季節を迎えます。春から夏は木を成長させるために元氣よく葉緑素を作り、日照時間が短くなると翌年の新芽のために余計な栄養が葉に行かないように葉の根元を遮断して落葉させます。葉緑素が作れなくなった葉は緑でなくなり、ますます老いて元氣がなくなつた人間みたいですが、ここから見える色が本来の葉の色だと言われています。

紅葉の赤は元々の色ではなく、葉の老化の過程で作られる物質が影響しているというところで、人間で言えば社会経験を踏まえて蓄えられた教養や智慧にあたると思います。それに対し、黄や茶は、春からすでに葉が持つている色です。元氣なうちは緑に隠れて見えませんが、緑がなくなると現れる色です。成長過程で獲得した色と元々持っていた色で、山や里を錦に染め、潔く次を後進に譲るとするのは、人生かくあるべ

しと諭してくれているようです。さて、今月二十三日は「勤労感謝の日」です。人は、自分が生きていかなくはないので、自分がこれから何をするか、どのようにするかを考えて行動します。「自己中」という言葉があります。自分が決めて実行するという意味では、自己中心思考は仕方ないと思います。他人をおもんばかりのも自己を中心にするからできることで、問題なのは、「自分さえよければ、他人のことはどうでもいい」という自己優先のほうでしょう。これは、周囲と摩擦を引き起こしてしまうのです。

しかし、いくら自己中心で生きていても、一人では生きていきません。電気・ガス・水道などのライフラインの設置、維持、管理をしてくれている人、食材を育てたり、補ったりしている人など、数万の人の力で一日を生きているのです。今日一日、してもらったことはとても多いので、「それが彼らの仕事である」と割り切れば、自己優先思考の泥沼にはまることとなります。勤労感謝の日は、このような方々に感謝する日でもありますが、私たちが救おうと一分一秒も休みなく働いておられる阿弥陀さまに感謝する日でもあるのです。今ここに生かされてある自分自身を支える一切の「おかげさま」に思いを寄せてみてはいかがでしょうか。